

雜 錄

**獨逸鐵工業近況** (昭和9年7月12日附在獨、長井商務書記官報告) 獨逸國內市場の好轉は逐次鐵工業にも好影響を齎し、獨逸工業地域中最樞要なるライン及ルール區域に在る鐵工業は再び採算可能となりたるものゝ如きも、以上工業をして収益可能ならしめつゝある基礎は、1928年並1929年の好景氣時代と其趣を異にす、即ち當時の同工業にとりては石炭販賣による利益甚大にして、其後恐慌並不況時代に入るも以上石炭による収益は能く鐵の損失を補充しつゝありたるに比し、今日の狀態は英貨下落の爲主として輸出向の石炭販賣収入の著しく削減せられたるに反し、鐵は全く國內市場の消費の増大に基き販賣増加の結果其業績著しく有利となりたり。

同工業が其操業率を完全に利用しつゝありし1929年に於て、輸出高は其の生産高の約1/4にして、1931年の壓延鐵材輸出は生産の2/5、而も其輸出價額は損失を已なくせるものなりしに比し、現今の鐵輸出量は生産量の1/6に足らざる狀態なり、勿論其輸出價格は今尙低廉に過ぎたりと雖、1、2年前に比すれば稍々改善を見、又平均經費の低下が鐵工業に取り復活の最大原因なりしは勿論なり、近年の最不況時代に比し粗鋼の生産は125% 銑鐵生産は100%の増加を見たるも、以上粗鋼生産増加率が銑鐵増加率より大なりしは銑鐵のストック大なりし爲なり。

更に鐵工業全體の操業率は現在全能力の約60%乃至70%なる故、既に収益可能なる操業率の最低限度を突破し、追加生産毎に利得を生ずる狀態に到達せり、同工業の支拂貸銀總額は既に1933年末に於て1932年當初の最低時代に比し60%増加し、其後も引續き新規雇入を見、又不況時代の習慣たりし労働時間の短縮も大に緩和せられたり。

米國等の鐵景氣が改善を見ながらも、神經質にして反動的現象による振動多きに比し、獨逸鐵工業の操業改善は順調確實なる経過を辿りつゝあるは、政府の公共事業振興策が間接に影響する處大なるに依るものにして、更に建築事業界の活況は鐵工業に最大なる拍車を與へたりと見られる、1934年に第14半期の一操業日平均壓延鐵材國內販賣量は2萬噸にして、前年同期の1萬2,100噸に比し約66%の増加を見、又建築事業にとり最緊要なる材料たる型鐵の一操業日平均販賣量は前年同期の625噸より一躍200%を増し、1,937噸に達し、公共事業の旺盛なる地方團體の需要により鋼管販賣量は100%を増し1,290噸(前年同期は652噸)となり、ユニバサル・アイゼンの販賣量も前年同期の864噸より220%を増して1,840噸となり、而して以上3種の一操業日平均販賣量の壓延鐵販賣全量に對する割合を見るに、前年同期に比し型鐵は45より9%に、鋼管は4.75より6%に、ユニバサル・アイゼンは6.5%より8.5%に何れも増加し居れり。

政府の助長政策に恵まれつゝある自動車工業の材料たる鐵板販賣量の壓延鐵材販賣全量に對する比も、前年同期は10%なりしが本年度第14期には12%に達せり、即ち以上の事實は政府並公共團體による労働調達政策が大いに鐵工業に好影響を及ぼしたるを證するものなり、然し乍ら公共事業による鐵の需要には永續性に際限あり、公共事業一巡し、或は財政的障碍により中止の已なきに至れる後依然として鐵の需要を存續せしめんが爲には、個人經濟による需要の復活或は輸出の振興を必要とするも、此方面の需要は未だ不

振にして、其原因たる諸工業の能力過剩、高利及収益可能性の將來に關する不安等は依然未解決の儘殘されつゝあり。

一方輸出は獨逸鐵工業は數年に亙り、生活費高なるを以て世界市場下落到堪へ得ず、西歐諸國殊に白耳義の生産業者に壓倒せられつゝあり、壓延鐵材は1931年及1932年に於て多量蘇聯邦へ輸出せられたるも、爾來同國への輸出激減し之により又獨逸壓延鐵材の輸出全量も1933年には1931年の半に減退せり、1932年には尙69萬噸を算したる壓延鐵材の對露輸出は、1933年に至り70%方激減し僅に19萬噸となり、之と同時に英國も從來の輸入國たる地位を脱し、急激に自給國ならんとし新關稅政策を實施せるに依り、獨逸の對英鐵輸出は全く停滯を見、1931年には50萬噸以上の獨逸壓延鐵材が輸入せられたるに比し、1933年の同國品輸入は僅に6萬噸に過ぎず、即ち1931年に比較せば獨逸壓延鐵材の輸出は1933年に至り對英、對露輸出のみでも數量に於て100萬噸以上價格に於て9,000萬馬克を失ひたり。

前述の如き輸出の損失にも拘らず、1933年の獨逸鐵の對外貿易は尙輸出超過を示せるは同年の銑鐵のストック多く、鐵鑛の輸入量僅少なりしによるものなり、即ち1926年より1931年迄の平均1箇年鐵鑛輸入は2億8,000萬馬克なりしに對し、1933年は僅に8,000萬馬克に過ぎず、更に1934年度に入り完成品の生産旺盛となり、鐵鑛並銑鐵のストックは涸渇し、再び外國產鐵鑛の輸入必要となりたるも、同時に獨逸壓延鐵材の輸出も漸次増加したる爲、1934年の鐵鑛輸入は壓延材の輸出より充分相殺可能なるものと見られつゝあり。

以上は狹義に於ける鐵工業の對外貿易なるも、一方廣義の獨逸鐵經濟即ち鐵鑛、屑、銑鐵、壓延鋼材、機械其他の鐵製品全體の對外貿易の獨逸輸出超過は年々驚くべき多額に上りつゝあり、即ち1924年より1933年迄の獨逸輸出全額中、鐵經濟諸生産品の占むる割合を見るに、輸入其7%、輸出29%にして、同10箇年間の獨逸對外貿易全體は18億馬克の輸入超過なるに比し、鐵經濟諸品のみは212億馬克の輸出超過を見たり。

以上の事實に鑑み、獨逸は爲替缺乏の現状にも拘らず鐵鑛は必要なる限り輸入を繼續するものと見られつゝあり。

(海外經濟事情 第35號)

**印度製鐵業保護關稅設定** (昭和9年7月27日及同8月3日並同7日著在カルカッタ、三宅總領事電報) 鐵及鐵製品保護關稅法案は、1934年7月25日議會に提出せられたるが、其内容は關稅調査會の提案せる保護稅率を其儘採用し、更に印度製スチール・インゴットに對して1噸に付4留比の消費稅を設定し外國製品に對しては、其消費稅相當額の輸入稅を賦課することゝなり居れり。商務長官は其理由として、關稅調査會案其儘にては關稅收入に減少を齎らすを以て、之を補ふ爲なりと説明せり。

(以上7月27日著電)

製鐵業保護稅率中收入稅とは、收入目的の爲設けられたる關稅にして其稅率は英國品に對し從價1割、英國品以外のものは從價2割なり、尙前記消費稅相當額の輸入稅に付ては、或製品には國內製スチール・インゴットに對する消費稅の1%、又或製品には消費稅の1倍1/3と定め、之に保護稅たる從量稅を加へたるものと、前記收入關稅たる從價稅と何れか高き方に依ることゝなり居れり。但

し英國品以外のものに付ては 1、2 を除く外、收入關稅と何れか高き方に依るを削除し居れり、其他關稅調查會案通り。(海外經濟事情 昭和 9 年第 30 號)

(以上 8 月 3 日著電)

本法案は 8 月 3 日の議會に上程、討論中なるが注意すべき點次の通り。

マドラス選出の有力議員・Mudaliar は、其辯論中特に亞鉛引鐵板を例證し、印度國內に於ける同品の需要が増大しつつある現状に於て、印度が其材料たるパーを英國に供給せざるに拘らず、英國品に對し他國品より噸當 30 留比の特恵を與へたるを難詰し、本品に關する特恵の爲、200 萬留比の歳入減を來たすべく、是等歳入填補の爲消費稅新設の必要に迫られたことを非難し、續いて政府は農民救済を屢々唱ふるも、例へば外米輸入制限の如きは 8 箇月を經過せるに拘らず尙交渉中なりと稱する有様なるが、亞鉛引鐵板が農民に依り多く需要せらるゝものなれば、農民救済の趣旨よりすれば、他國品に對し 40 留比の高率稅を課するは不當なり、畢竟政府の方針が國內工業保護よりも寧ろ英國に對する特恵賦與にあり、云々と述べたり。

因に本案は即日審査委員會に附託せられ、同委員會報告は 8 月 13 日迄に提出せらるゝ管。(以上 8 月 7 日著電)

(海外經濟事情 第 33 號)

蘭領東印度の金網類輸入狀況 (昭和 9 年 6 月 11 日附在スラバヤ、姉齒領事報告) 輸入商の名稱 所在地 次の如し。

Geo. Wehry & Co., Heernstraat Sourabaya.  
Borneo Sumatra Handel Mij. Chineesche Voorstraat  
Lindeteves-Stokvis, Pasar Besar.

外國品との競争其他 本品は嘗つて當地邦商も取扱ひたるも、近年は前記蘭商大手筋に於て、直接日本内地製造者と取引しつゝあれば、現今邦商の取扱店なし。

本邦品に對する稅率 當領關稅法には、差別稅を設け居らず、現行稅率は從價 6 歩なり。

支拂に關する慣例 當領は爲替管理は行はれ居らず。

○鐵線製網物及織物輸入統計 (但し瓜哇及マヅラ島)

(單位、匁、盾)

國名	1931 年		1932 年	
	數量	金額	數量	金額
和蘭	109,644	34,928	152,416	38,600
英國	12,035	4,176	5,444	2,202
獨逸	324,408	105,402	249,244	85,352
白耳義	20,527	5,515	16,705	4,217
埃國	2,207	1,082	—	—
米國	15,316	5,469	—	—
日本	—	—	102,467	19,018

(註) 關稅品目表には金網の項なし。

(海外經濟情報第 33 號)

日本製鐵の増産計畫樹立 製鐵國策遂行の機關として出現した日本製鐵會社では創立以來、銑鐵及鋼材を増産すべき必要に迫られ殊に銑鐵の如きは印度から多量の輸入を仰がねば國內の需要を満し得ない實狀にある爲めその使命遂行上甚だしく怠慢なりとして社會の非難を買つてゐたが、その間日鐵理事者は孜々として増産計畫を研究の結果漸く成案を得たので重役會を開き決定の上、1,000 噸銑鐵爐認可を含む申請を商工省に提出した、その増産計畫は第 3 期即ち來る 10 月の營業期から着手するもので大要次の如くである。

1. 八幡製鐵所に 1,000 噸の銑鐵爐 1 基及びこれに伴ふコークス爐其他の設備を新設する、その經費は 1,300 萬圓位で 2 ケ年間繼續

事業とし第 3 期の所要費額は 100 萬圓位とする。

1. 輪西製鐵所に低溫乾溜設備を爲し石炭 1 ケ年 10 萬噸を使つてガソリンその他の石油 8,000 噸及びコーライト 7 萬 5,000 噸を製造する、ガソリンはこれを賣却し、コーライトはコークスの配合用に使用する、この費額は約 90 萬圓で 1 年半位の繼續事業とし、第 3 期中に約 30 萬圓を投ずる。

1. 富士製鐵所に帶鐵工場を新設する、その年産 5 萬噸で費額は 120、140 萬圓、2 ケ年間の繼續事業とし、第 3 期には 30 萬圓を投ずる。

その他釜石にも壓延設備増設の爲めモーターを新設する等來期以降の新設費は毎期 1,000 萬圓以上 1,500 萬圓に達する見込となつてゐる。(工業之大日本第 31 卷第 8 號)

鋼管會社滿洲に設立計畫 日本鋼管白石副社長は滯京中の昭和製鋼所佐堂社長を丸ビル内同所東京出張所に訪問、明年 4 月より作業開始すべき昭和製鋼所の製鋼計畫、特に年 35 萬噸を外賣する豫定となつてゐる鋼魂、ピレット其他半製品の内容及び最近傳へられる同所の 5 割増産新計畫等につき詳細に説明を聴取次で同所半製品の供給を受け之を原料とする鋼管會社を日本鋼管と鞍山鋼材との共同出資に依つて創立せんとする既報の計畫に就き佐堂氏の諒解を求める所あつた、之に對し佐堂氏は單に聽置く程度で半製品供給方に關し明確なる即答を避けたが昭和製鋼所を中心とする鋼材鋼管會社の設立計畫は他にも多數を傳へられて從て同所に對する半製品供給申込み殺到せんとする状態なので佐堂社長が之を如何に處理するか注目される。(工業之大日本第 31 卷第 8 號)

昭和製鋼は年産 50 萬噸に増産 昭和製鋼所が現在鞍山に建設中の工場は明春 3 月より銑鋼約 35 萬噸を産出せることとなつてゐるが最近同所の鋼材を目あてに内地資本の滿洲進出夥しく、既に鞍山鋼材及び鞍山鍍金の 2 社が同所と供給契約をなしたる外、鋼管會社が 5 社も成立し其の他方又内地に於ても同所の半製品需要が激増して來たので茲に愈々鋼材増産の必要に迫られ佐堂社長は 1 日上海内地に於ける之等企業家の資本狀態技術方面等を調査の上正確な増産計畫を立てることとなつたが大體 50 萬噸前後で建設資金は 2,000 萬圓の豫定である。(工業之大日本第 31 卷第 8 號)

第一重鋼業創立計畫進む 京都特殊鋼株式會社は陸、海軍の指定工場として特殊兵器の製作に従事してゐるが、社長川那部甚藏氏が多年苦心の結果成功した防楯鋼(特殊合成鋼)をもつて製作した新鋭兵器は軍部の稱讚を博しその大量生産を命ぜられたが、現工場では壓延作業設備なきため至急これが擴張増設を必要とし、同氏を中心に縁故者で資本金 300 萬圓の第一重鋼業株式會社設立を計畫され京都特殊鋼の敷地工場その他の權利全部を買収することになり創立準備を進め、大阪堂島ビル六階に創立事務所を設けたが、市場性を持せるため一部株式を公募する方針である。(工業之大日本第 31 卷第 8 號)

(工業之大日本第 31 卷第 8 號)

神戸製鐵近況 神戸製鐵所では重役會を開き今期決算案(優先株年 7 分 5 厘据置、普通株は 2 分 5 厘を増して優先株同様年 7 分 5 厘とす)を査定、8 月 13 日の總會に任期満了の社長永安晋次郎常務森本準一、同遠藤壽一、監査役曾我祐邦、同佐々木義彦五氏改選の件とも附議された。

(單位圓)

總益金 1,588,998 ▲内固定資産償却金 500,000 ▲差引純益金 1,088,998 ▲前期繰越金 561,463 ▲合計 1,650,462 ▲内法定積立金 60,000 ▲退職慰勞基金 100,000 ▲研究資金積立金 75,000

▲役員賞與金 75,000 ▲配當金優先、普通株とも年7分5厘 750,000 ▲後期繰越金 590,462

成績は前期より純益金7萬圓を増した程度で大體同様であつたが今期は前期の特別賞金を廢して役員賞與金および普通株増配に充當した、また重役改選は先に大株主臺銀の持株處分に伴ひ必然の異動をみるものとして一般に注視されてゐるが臺銀系重役として改選期にある永安社長森本、遠藤兩常務は勇退に内定し同じく任期中の臺銀系濱野常務は25日の重役會で辭任した、即ち臺銀系としては改選期の曾我佐々木兩監査役が留任をみるはずで今後の經營は田宮専務、淺田取締役兼製鐵部長を中心に行はれるはずである、また先に別の理由で辭任した西山勉氏はその後正金神戸支店長よりニューヨーク支店長に榮轉したのみならず正金は持株なく正金より補充する

ことはない模様である。(工業之大日本第31卷第8號)  
**印度製鐵保護關稅法案議會通過**(昭和9年9月11日著在カルカッタ、三宅總領事電報)英國印度製鐵保護關稅法案が議會を通過し本法は1934年11月1日より實施せらるゝ管なる處修正せられたる點次の通り。

- (1) 英國製 Structural Steel and Iron 及 Steel Plate (稅番第143 A の1及147) 收入關稅從價1割何れか高き方に依る。
- (2) Tin Plate 及 Tinnel Sheets (稅番第154) 消費稅相當額の1/2を、1/2に増率す。
- (3) 英國製以外の Iron 又は Steel Bar 及 Rod (稅番第144 第2項) の從量稅を同從量稅又は從價2割何れか高き方に依るに變更す。

主要製鐵所に於ける6月分鐵鋼材生産高調 (商工省鑛山局) (單位噸)

品 目	6 月 分			累 計			
	昭和9年	昭和8年	増 減	昭和9年	昭和8年	増 減	%
銑 鐵 (内 鮮 洲)	162,697	135,934	26,762	948,441	715,150	233,291	32
普 通 鋼 鋼 片	37,574	35,824	1,750	230,434	224,190	6,244	3
普 通 鋼 鋼 片	289,021	243,332	45,689	1,797,363	1,475,423	321,940	22
同 鋼 鋼 片	8,708	6,248	2,460	45,528	56,115	- 10,587	18
同 鋼 鋼 片	9,105	9,625	- 520	75,449	67,288	8,161	12
同 鋼 鋼 片	5,181	4,469	912	32,244	25,912	6,332	24
普 通 鋼 鋼 鋼 材	321,046	202,031	119,015	1,300,640	1,186,316	314,324	26
壓 延 鋼 材 内 譯							
厚 0.7mm 以 下 鋼 板	34,136	26,252	7,884	148,854	154,557	- 5,703	3
其 他 鋼 板	57,003	34,728	22,275	303,179	225,204	77,975	34
力 鋼 板	5,052	-	-	23,119	-	-	-
棒 形 鋼 材	105,349	58,336	47,013	369,758	311,899	57,859	18
軌 道 鋼 材	40,351	24,991	15,360	203,607	169,917	33,690	19
線 鋼 材	30,232	21,994	8,238	179,375	115,706	63,669	55
鋼 管 其 他	33,333	22,550	10,783	188,680	130,125	58,555	44
其 他 鋼 材	12,104	10,433	1,671	63,210	62,174	1,036	1
其 他 鋼 材	3,486	2,747	739	20,823	16,734	4,124	24

備考 増減中一は減を示す

昭和9年6月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品 名	生 産 額	6 月 中	前 月	前年同月	1 月 以 降 累 計	
					昭和9年	昭和8年
金 (gr)		1,164,142	1,127,231	1,070,243	6,971,805	6,375,893
銀 (gr)		17,324,627	17,030,726	14,072,837	103,876,036	86,663,073
銅 (kg)		5,676,051	5,115,389	5,427,377	33,406,723	34,883,357
鉛 (kg)		590,700	550,314	593,277	3,359,289	3,315,057
錫 (kg)		2,332,975	2,657,059	2,347,933	14,492,928	14,198,945
硫 磺 (t)		78,693	84,282	77,420	467,126	475,273
黃 鐵 礦 (t)		10,117	10,308	8,705	57,142	47,775
硫 磺 化 鐵 (t)		85,428	89,119	65,894	530,134	458,235
七 安 炭 (t)		376,984	426,533	355,744	2,407,823	2,333,792
石 炭 (t)		74,672	74,434	67,218	374,030	335,607
石 油 (原油) (100L)		2,643,897	2,872,840	2,422,166	17,102,834	14,377,545
		190,806	187,935	178,814	1,065,806	1,092,185

昭和9年外國銑輸入高表 (單位噸) (銑鐵共同販賣會社)

月 次	輸 出 國 名					其 他	計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典		
1	10,736	102	-	-	-	-	10,838
2	13,563	274	-	-	32	-	13,869
3	11,304	71	-	-	-	306	11,681
4	8,399	31	-	414	16	-	8,860
5	15,806	152	152	-	-	-	16,110
6	12,826	-	-	-	203	-	13,029
7	11,124	81	-	255	-	7	11,467
計	83,758	711	152	669	251	313	85,854

内外最近刊誌參考記事目次

Die Verteilung des Schwefels zwischen Gas und flüssigem Eisen. Maurer u. Bischof. s. 655.  
 Die Entschwefelung von Stahlbädern durch Fluszspat. Meyer u. Gorrissen. s. 665.  
 Abhängigkeit des Fliesbeginns von Spannungsverteilung und Werkstoff. Siebel u. Vieregge. s. 679.  
 Betriebserfahrungen mit Feuchtigkeitsmessgeräten für staubhaltige Industriegase. Gutmann. s. 673.  
 Der Einfluss einer Wärmebehandlung auf die Ausbildungsform des Schwefels im Stahl. Niedenthal u. Bennek. s. 683.  
 Die Eisenecke des Systems Eisen-Manzan-Chrom. Köster. s. 687.  
 Das Zustandsschaubild Kobalt-Silizium. Vogel u. Rosenthal. s. 689.  
 Die Vorgänge beim Anlassen abgeschreckter Stähle. Esser u. Cornelius. s. 693.  
 Die Berechnung der Kosten von Kupfelerzeugnissen im Eisenhüttenwesen. Müller. s. 699.  
**Blast Furnace and Steel Plant, June, 1934.**  
 Characteristics of Carbon and Alloy Steels. Bain. p. 324.  
 Welding's Challenge to Steel. Chapman. p. 333.  
 Finishing the Heat of Steel part 21. Hrska. p. 335.  
 Economy of the small power plant part 3. Cate. p. 337.  
**I. & St. Ind., June, 1934.**  
 Behaviour of Ni-Cr Steels as Fifebars in an Anthracite "Open Fire" at High Temperature. Barratt. p. 287.  
 Design and Manufacture of Large Tump Casting. Cook and Hudson. p. 291.  
 Steel Ingots. Bacon. p. 309.  
**Metallurgia, June, 1934.**  
 Magnesium-Chromium as a Deoxidizer of Copper. Vickers. p. 43.  
**Metals & Alloys, Jun. 1934.**  
 Economic Results of Metallurgy-Recent and to Come. Hoyt. p. 113.  
 The Effect of Fluorspar on the Viscosity of Basic Slags. Schwerin. p. 118.  
 Dimensional Changes in Die-Casting Alloys. Kennedy. p. 124.  
 Furnaces for Elevated Temperature Tests. Montgomery & Bolton. p. 127.  
 Effect of Notches on Nitrided Steel. Johnson & Oberg. p. 129.  
 Internal Stresses. Barrett. p. 131.  
 The Effect of Stress on the Transformation Temperature of Iron. Holmquist. p. 136.  
 The Metallographic Determination of the Size Distribution of Temper Carbon Nodules. Schwartz. p. 139.  
**St. u. E., Jun. 1934.**  
 Die Seigerung in Stahlblöcken. Meyer. s. 597.  
 Ergebnisse des Umbaus und der Umstellung von Kleinschmelzöfen auf feinkörnige Steinkohle. Trapp. s. 605.  
 Abbrandverhältnisse in basischen Lichtbogen-Elektrostahl-Oefen. Pakulla u. Rudnik. s. 621.  
 Behinderte Formänderung in Schweissnähten. Bollenrath. s. 630.  
 Ueber Bezugsgroszen zur Berechnung der Hauptvorgänge beim Walzen. Hoff u. Dahl. s. 655.  
 Betrachtungen über den Reduktionsmechanismus der Eisenoxyde. Baukloh u. Durrer. s. 673.  
 Abbrandverhältnisse in basischen Lichtbogen-Elektrostahl-Oefen. Pakulla u. Rudnik. s. 676.  
**Trans. Amer. Soc. Metals., Jun. 22, 1934.**  
 Comparison of Single-Step Long-Time Creep Results with Hetfield's Time-Yield Stress. White & Clark. p. 481.  
 The Present Status of Age-Hardening. Harrington. p. 505.  
 On the Manufacture of Rimming Steel. Fleming. p. 532.  
 The Life of Turning Tools as Influenced by Shape. Boston & Gilbert. p. 547.

(日下)

**日本化学會誌** 第55巻 第7號  
 基隆川産ジルコン及びモナズ石に就て 飯沼 弘司 (644)  
**應用物理** 第3巻 第8號  
 固體金屬の擴散に就いて 俣野仲次郎 (301)

**機械學會誌** 第37巻 第208號  
 軟鋼圍鑄の振りによる二種類の降伏に就て 中西不二夫 (501)  
 復水器管腐蝕問題の研究 (第2報) 田邊友次郎、小磯五郎 (506)  
**金屬** 第4巻 第8號  
 硬度測定法の比較 石澤 命知 (251)  
 錫青銅の熱處理に關する二三の現象に就いて 今井 弘 (261)  
**大日本鑛業協會雜誌** 第42集 第500號  
 珪酸苦土質の耐火及び電氣材料ステアタイトの研究 (第2報) 永井彰一郎、深井吉之助 (471)  
 珪酸石灰の研究 (第4報) X 線解析 近藤清治、山内俊吉 (479)  
**九州鑛山學會誌** 第5巻 第1號  
 ルール地方に於ける坑内作業に就て 三井 徑光 (20)  
**工業雜誌** 第70巻 第884號  
 輕合金の鑄附及び輕合金鑄物のピンホール修理に就て 井上 弘健 (368)  
**鞍山鐵鋼會誌** 第50號  
 鞍山骸炭製造用石炭の乾餾試驗報告撫順80%、本溪湖20% 配合炭に就て 丸山智明 外2名 (1)  
 獨逸産各種煉瓦の物理的性質 三田 正揚 (24)  
 鐵筋混凝土杭耐荷力試驗報告 井上 文世 (49)  
 冷剛車輪の鑄造に就て 服部 信次 (61)  
 滿僊鋼注砂管の鑄造に就て 水内 昇一 (70)  
**石炭時報** 第9巻 第8號  
 我が帝國の石炭國策 (2) 岸 道三 (2)  
 「選炭困難度」に就て 高 桑 健 (14)  
 石炭の液化に就て 磯 部 甫 (19)  
**水曜會誌**  
 冶金爐内に起る二、三の化學變化に就て 故 和通 莞爾 (477)  
 酸化第二銅の硫酸化焙燒に就て " 和通 莞爾 (513)  
 耐熱性アルミニウム輕合金の研究 (II) 伊丹榮一郎 (519)  
 鐵道工場に於ける鑄造作業に就て (II) 大西信三郎 (533)  
**電氣化學** 第2巻 第8號  
 電氣化學工業と炭素 寒川 恒貞 (26)  
**製鐵研究** 第138號 昭和9年7月  
 鐵炭素系合金の高温に於ける比熱並に相の變化に伴ふ熱量の變化に就て (2) 海野 三朗 (71)  
 改造第八骸炭爐の電氣設備に就て 三原 六男 (113)  
 洞岡第三號瓦斯送風機並に餘熱回收裝置の試驗成績 末藤 作次 (123)  
**北海道石炭鑛業會々報** 第239號  
 水式選鑄の科學的基礎 松野 榮治 (39)  
**金屬の研究** 第11巻 第7號  
 包晶反應による結晶粒微細化の機構 朝 戸 順 (317)  
 Na<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub>-K<sub>2</sub>TiO<sub>3</sub> 系狀態圖 西岡卯三郎 (344)  
 繰返打撃に依る炭素鋼の疲勞度及び其恢復 大柴 文雄 (328)  
 水素寒暖計による低温度の測定 青山新一、神田英藏 (348)  
 固體窒素、固體酸素の蒸氣壓 青山新一、神田英藏 (357)  
**工 政** 昭和9年8月 172號  
 最近本邦鑛業界の趨勢 中 川 信 (1)  
 樺太の燃料資源と其利用 可 野 信一 (3)  
 骸炭工業の趨勢 伊 能 泰治 (7)  
**電氣評論** 第22巻 第8號  
 鐵電弧特性の研究 (第一報) 岡 本 越 外2名  
 銻接用直流發電機の實驗的研究 岡 本 越 外2名  
**鑄 物** 第6巻 第8號  
 船尾軸被金鑄造法 海軍艦政本部 (555)  
 電氣製鋼爐の採用及其の製品に就て (2) 滿鐵鐵道工場 (558)  
 鑄物砂に配合したる骸炭粉の效果に就ての研究 (2) 武 智 馨 (566)  
**エンヂニヤリング** Vol. 22, No. 8

銅と軟銅との電弧溶接に就て 山中 秀男 (291)  
 金屬電弧溶接設計法 (六) 三好 巽 (301)  
 低炭素鋼の滲炭及焼入に就て 小熊 容徳 (304)

**海外經濟事情** 昭和9年 第33號  
 世界主要國の原油生産及精油概況(1933年)(昭和9年  
 6月27日附在ニユー・オルレアンス、佐藤領事代理報  
 告)(1P)  
 石炭輸入状況(廣東)(昭和9年6月20日附在廣東、  
 川越總領事報告)(13頁)

**採鑛冶金月報** 第12年 第8號  
 ニツケル鑛 渡邊 俊雄 (183)

**住友伸銅鋼管株式會社研究報告** 第2卷 第1號  
 丸鋼の高温穿孔に際して發生する或種の疵に就て 絹川武良司 (1)  
 工具用特殊鑄鐵の豫備的研究 絹川武良司 (22)  
 マグネシウム合金の防蝕に就て(其2) 五十嵐勇、中田兵次 (58)  
 デュラルミン板の熱處理と陽極的酸化に就て 稻村賢三、大橋秀吉 (67)

**海外經濟事情** 昭和9年 第34號  
 武漢地方の工業界現況(昭和9年6月26日附在  
 漢口、清水總領事報告)(5)

**燃料協會誌** 第143號  
 第八コークス爐の乾燥並に爐作業に就て 高橋 湛 (577)  
 本溪湖に於けるコークス爐の變遷に就て 越智 春一(1011)

**海外經濟事情** 昭和9年 第35號  
 獨逸鐵工業近況(昭和9年7月13日附在 獨、長井  
 商務書記官報告) (44)

**工業之日本**  
 無限の原料、粘土から國防に重要なアルミニウムの  
 安價製造 加藤興五郎 (19)  
 電氣鍍金 I. U. 生 (20)

**日本鑛業會誌** 第50卷 第592號  
 アルミニウム青銅の共析變態の性質に就いて 大日方一司 (649)  
 第7回採鑛研究會記錄 (670)  
 第7回冶金研究會記錄、銅轉爐に關する事項 (679)

**溶接協會誌** 第4卷 第4號  
 アルミニウム及びその合金の電弧溶接(第11報) 岡本 起外 2名 (221)  
 金屬薄板の電弧溶接に就て(第1報) 岡本起、蓼原泰彦 (231)  
 側面隅肉繼目の應力 仲 威雄 (245)

**金屬** 第4卷 第9號  
 銅合金に現はれるβ變態に就て 大日方一司 (289)  
 硬度測定法の比較 鑛に依る硬度検査 石澤 命知 (295)  
 高温に加熱する事に依る鑄鐵の生長に就て 菊田多利男 (299)

**機械學會誌** 第37卷 第209號  
 鋼の繰返振り應力試験に就て 西原利夫、河倉義安 (593)

**電氣製鋼** 第10卷 第8號  
 鋼の窒化に關する基礎的研究 綿織 清治 (305)

**應用物理** 第3卷 第9號  
 縱磁場による金屬の電氣抵抗の變化 松山 芳治 (331)

**大日本鑛業協會雜誌** 第42集 第501號  
 耐火材料に關する研究(第8報)ゼーゲル鑛の使用條  
 件に就て(其1)クリプトル抵抗電氣爐に於ける實驗  
 中本 實外 2名 (10)

**海外經濟事情** 昭和9年 第36號  
 國際錫プール計畫並其要綱(昭和9年7月13日及  
 同17日附在 新嘉坡田村總領事報告) (1)  
 世界貿易の將來(昭和9年7月7日附在 獨、長井商  
 務書記官報告) (2)  
 石油生産状況(米國)(昭和9年7月13日附在 =  
 ニユー・オルレアンス、佐藤領事代理報告) (66)

**エンヂニヤリング** Vol.22. No.9  
 低炭素鋼の滲炭及焼入に就て(三) 小熊 容徳 (347)  
 金屬電弧溶接設計法 三好 巽 (344)  
 銅と軟銅との電弧溶接に就て 山中 秀男 (335)

**研究報告** 昭和9年8月 三菱重工業株式會社名古屋  
 航空機製作所  
 硬度検査法の比較(其二)(鑛に依る硬度検査)  
 石澤命知、尾形康夫 (1)  
 鋼入排出弁の弁棒の熱膨脹 須永信二、中川敏雄 (17)  
 各種潤滑油の焼付試験 町井 義夫 (20)  
 佛國イ社發動機用航空燃料に就て 町井 義夫 (39)  
 耐寒グリースの耐寒度試験 町井 義夫 (48)

**金屬の研究** 第11卷 第8號  
 包晶微細化の合金性質に及ぼす影響 朝戸 順 (366)  
 砂鐵鑄滓の研究 第2報(砂鐵、第31報)  $CaO \cdot SiO_2 - CaO \cdot SiO_2 \cdot TiO_2$  及  $CaO \cdot SiO_2 \cdot TiO_2 - TiO_2$  系平  
 衡狀態圖(安定系) 福島 政治 (377)  
 陰極線廻折による炭素粒の研究 三輪 光雄 (396)  
 砂鐵海綿鐵の濕式處理による鐵、チタン及ヴァナヂン  
 の完全分離(砂鐵、第32報) (406)

**北海道石炭鑛業會々報** 第240號  
 微粉炭の取扱に就て 高桑 健 (1)

**電氣化學** 第2卷 第9號  
 電氣收銅に於ける密晶限界電流密度電壓及び同析出組織に及ぼす  
 水素及び酸素の影響 平社敬之助 (313)

**海外經濟事情** 昭和9年7 第37號  
 アルミニウム並同加工品輸入状況(緬甸)(昭和9年7月4日附  
 在蘭貢、湯谷領事館事務代理報告) (27)

**鑄物** 第6卷 第9號  
 電氣製鋼爐の採用及其の製品に就て 滿鐵鐵道工場 (619)  
 鑄物砂に配合したる骸炭粉の效果に就ての研究 武智 馨 (628)  
 アルミニウム合金製發動機曲軸室の鑄造法に就て 道下 靜雄 (636)

**工政** 第173號  
 輕金屬合金に就て 堀口 貞雄 (36)

**日本ニツケル情報局**  
 迅速ニツケル鍍金法  
 ジェームス・エー・ラビット 岡本 孝(全卷)

**朝鮮鑛業會々報** 第141號 昭和9年9月1日  
 浮選法「早わかり」(4)